

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌(暫定版)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0 | 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)札幌東宝公衆ビル	階数	地上9F
建設地	札幌市中央区南五条西三丁目6番地	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	〇〇〇人
気候区分	1地域	年間使用時間	5,110 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2015年10月 予定	評価の実施日	2014年10月6日
敷地面積	1,253 m ²	作成者	三菱地所設計
建築面積	1,116 m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	10,974 m ²	確認者	〇〇〇

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外の 77%
④上記+ 77%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>本計画は、長くすすきの場に慣れ親しまれた、東宝公衆ビル(映画館複合ビル)の建て替えである。新しい商業ビルに生まれ変わるにあたり、外壁断熱性能の向上、設備シャフトの適正化、既存ビルの外観イメージの踏襲等、ビル基準としての省エネ対策に配慮し、場所の記憶を残すことで、今後も人々に親しまれることを願っている。</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の4つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p>W (Global Waiming) 省エネルギー・省資源</p> <p>注) 「W (Global Waiming) : 省エネルギー・省資源」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱伝導率0.053W/mkと、断熱性能の高い外装材を採用し、開口部も極力設置しないことで、温熱環境を向上させている。 近隣に建物が近接する立地のため、取り入れ外気を屋上 	<p>G (Green) 緑化</p> <p>注) 「G (Green) : 緑化」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業地域であることから、まとまったスペースの確保できる屋上緑化を採用している。 	<p>S (Snow) 雪処理</p> <p>注) 「S (Snow) : 雪処理」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物周囲にはロードヒーティングを敷設している。 エントランスをセットバックさせることで、雨宿り空間を供している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される